

オリジナル  
建築ガイド  
マップ

宮本和義の

# 建築採集記



## 先

月、暖かいと思っ  
た讃岐は痺れる寒さだっ  
たが、今回向かった阿波  
も冬のなかだった。

着いた空港は、やや風が強いが快  
晴である。空港に、徳島市で活躍す  
る建築家の富田眞一さんと野々瀬徹  
さんが出迎えてくれた。私より大分  
若い2人だが、働き盛りで地域の建  
築家仲間のリーダー的存在であろ  
う。そんな2人が、多忙のなか、昼  
食後から夕方一杯、取材に協力して  
くれた。

これまで、九州でも北海道でも東  
北でも、地域の建築家を始めとする  
多くの方々に、多大な協力をいただ



第24回

## 阿波の国早春譜

いてきた。そのたびに皆さんからよ  
くいわれるのは、自分たちの「地域  
の建築採集」をまとめて欲しい、と  
いうことだ。どの地域にも、近代か  
ら現代にわたる地域の建築を集成し  
た本がほとんどない。だから、お世  
話になったお礼は、この連載をまと  
めることでお返ししなければならな  
い。いつも現場でひしひしと感じる  
ことである。

富田さんと野々瀬さんの2人は、  
『総覧日本の建築』中国・四国編  
(新建築社刊)の取材に関わるなど  
して、取材慣れしている様子だった  
が、富田さんは特に、人が目を向け  
ないものに固執する傾向がある。ど

うも同族らしいと直感。いわば「少  
しヘンな建築」オタクに類する。も  
ちろん、通常の良質な建築も確実に  
判別はしているが、かなり「ヘン」  
な気配がある。そうなるには、特別  
の感性と経験を必要とすることは確  
かだから、同族は多くはない。紹介  
してくれた路地の腐りかけた洋館や  
写真になりにくい跳ね橋なども、彼  
の採集類であるらしい。

徳島県は、四国四県のなかでも作  
品数が最も少ない。みて回った建築  
も、全国の平均点から見ると、ズバ  
抜けているとはいえない。数が少な  
くても高レベルのものが多く、とい  
うことは各地の例を見てもほとんど

ない。ただ、年節的には野々瀬さんや富田さんの後輩に当たるともあろう。岡健治さん、野口政司さん、中川俊博さんら、これから大いに期待できる有能な建築家が何人かいて、頼もしく、楽しみである。

市内に滞在中、昨年度のJIA新人賞受賞者の講演会があった。この講演会は、何故か毎回徳島市でやっている。講演会の後のパーティに誘われて、ちょっと顔を出す。今年の新人賞は、今村雅樹さん、古谷誠章さん、十八木千子さん、吉松秀樹さんの4人である。会場には数十人がいて、当然、富田さんや野々瀬さんの顔も見えた。ビールを一杯だけいただいて帰ろう…と思つて、コソコソと行つたら、「是非、御挨拶を…」といわれる。遠慮したが許してもらえず、「徳島は取材対象の建築の数も質もいま一つなので、自薦他薦問わず情報を…」と取材の宣伝をする。パーティ後、喫茶室で古谷さんたちと雑談。どうみても私が一番の大年増なので、気楽さはある。東京でもあまりパーティなどは出ないが、出ると隅にいない自分に気付く。長く、己れの正体が実測できないでいる。

翌日、徳島市を出て県東南に向かう。

「喫茶・大菩薩峠」は、その途中にあった。煉瓦を積んだ喫茶店である。オーナーが30年かけて自力でつくった魅力に溢れた建築である。御本人と話をした。岩窟王などと呼ばれる存在らしく、頑固で偏屈な人と想像していたが、なかなか素敵な老人であった。積んだ煉瓦は20万個余りという。店の内部は、清潔感があつて、トイレはアプローチも含めて素暗らしかつた。現在は、建物の裏のほうに石の家をつくつていて、今年中に完成させるといふ。裏に回ると、つくりかけの石の家らしきがあつた。この人の楽しいところは、目的がつかれることだけ、というところだ。初めに何に使うかは考えてつくつていくわけではない。真の芸術家でもなく、商品化するわけでもなく、人に見せたいわけでもなく、ただひたすらつくり続けることは、半端な芸術家にはできない、と彼のファンになって店を出た。

外は相変わらず、細い雨が降っている。鶯があらわれそうな時期なのに、声もない。けれど、肩をすぼめる風はすでに遠く、阿波は確実に早春のなかにあつた。



### 1 徳島市立内町小学校

1979 (S54)年 徳島市徳島城の内西の丸  
設計/指宿真智雄・建築デザイン 施工/岡田組  
計画地に残る原生林と「野づら積」と呼ばれる城跡の石垣を積極的に保存することで建物配置が決定されている。派手さはないが、周辺に溶け込んだ好作品

### 2 徳島県郷土文化会館

1971 (S46)年 徳島市藍堀町新町川公園  
設計/西山卯三・地域計画・建築研究所・徳島県土木課  
施工/竹中工務店  
日本の住宅研究の第一人者・西山卯三の作品といわれて、まず思い浮かぶ建物。藍堀公園に架橋。3階から上の部分を独立柱で支え、新町川側からの外観は量感溢れるものである。県民に最も利用されている施設であるともいふ



10

10

## 富田建築設計室

1994 (H6) 年 徳島市川内町小松東58-15

設計/富田建築設計室 施工/アズマ建設

吉野川の土手沿いに建つ木造3階建て。「身近にある材料を素直に使い、ノンドィテールで仕上げた。目の前に広がる雄大な吉野川の風景の前ではデザイン行為が空しく映った」とは設計者の弁。設計者自身は「バラックだから」と掲載を固辞したが、かなり良質のバラックと判断して掲載